

マタイ

21

火中の恵みをつかみとろう

マタイ福音書8章28～34節

メシアの奇跡④

ガダラ人の癒し

アウトライン

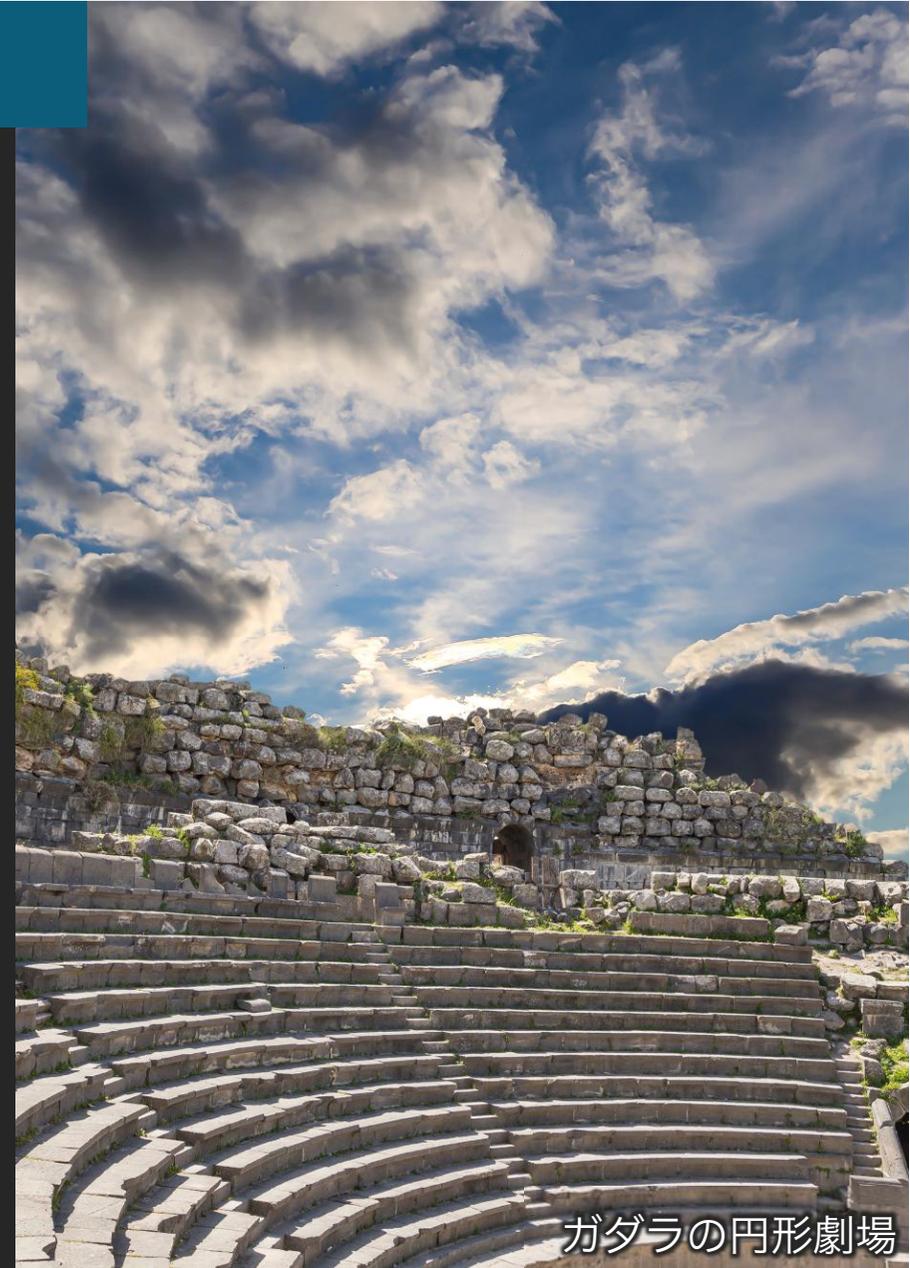
0. イントロダクション

I. ガリラヤの歴史的背景

II. ガダラ人の癒し 8:28～34

III. まとめと適用

火中の恵みをつかみとろう



ガダラの円形劇場



0. イントロダクション

ヒッポスの遺跡

【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
出エジプト
~王国時代
~メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

メシアの公生涯は、
律法時代の最後

過去

現在

未来

メシアの生涯

宣教

→ 拒絶

→ 弟子訓練

→ 十字架へ

メシアによる
メシアの証明

宣教開始

弟子の召命

荒野の誘惑

バプテスマ

メシア的奇跡

安息日(律法解釈)論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐



マタイと マルコ、ルカで なぜ違う？

■ 嵐を静める奇跡、ガダラ人(ゲラサ人)の癒やし

→ マルコ、ルカでは、ベルゼブル論争後

→ マタイでは、ベルゼブル論争前

■ 編集方針の違い!!

→ マルコ、ルカは、**時系列**で記載

→ マタイでは、**内容**で区別。

① 大衆伝道か？ …一般向けのメシアの証明

② 弟子訓練か？ …受け入れた者へのメッセージ

マタイでは、マタイの文脈と意図を第一に読んでいこう!!

マタイ福音書によるメシアの生涯

	章	時代	おもな内容
出生	1~2	誕生	エレミヤの召命
大衆伝道 (公開)	3~4	宣教の開始	バプテスマ、悪魔の誘惑、ガリラヤへ
	5~9	宣教	山上の説教(5~7)、 メシア的奇跡(8~9)
	10~12	衝突	12弟子の派遣、ベルゼブル論争
弟子訓練 (限定)	13~20	弟子訓練	たとえ、信仰告白、山上の変容
	21~25	最後の論争	エルサレム神殿での最終論争
	26~27	受難	最後の晩餐、裁判、十字架と葬り
	28	復活	復活、弟子たちへの最後の命令

メシアの生涯・前半 大衆伝道

■ イスラエルへの**公式の宣言**から開始

「悔い改めなさい。天の御国は近づいたから。マタイ4:16」

■ 群衆の公然で公開された、メシアの証明

➔ 律法の解き明かしも、奇跡も、**公的なメシアの証明**

来る者は誰でも、癒やされ、教えを聞くことができた

■ イスラエルからの公的拒絶以降は、限定した弟子訓練に以降

➔ 公的な教えや癒やしが完全になくなったわけではない。

マタイは、公的癒やし、教えを、前半部分(5~9章)にまとめた

極めてユダヤ的なマタイに記された異邦人の姿

■ 最初から記されている異邦人

- ① 系図に記された異邦人女性(1章) …タマル、アハブ、ルツ
- ② 東方からの博士たち(2章)
- ③ 「異邦人のガリラヤ」でのメシアの成長、宣教(4章)
- ④ 異邦人の地(デカポリス、ヨルダン川東岸)から来た人々(4章)
- ⑤ 百人隊長のしもべの癒やし(8章)

■ 異邦人の地での巨大な妨害

- ⑥ 異邦人の地に渡る途上での湖を沈める奇跡(8章)
- ⑦ ガダラ(ゲラサ)人の癒し

前代未聞の大嵐、大軍の悪霊憑き 異邦人の地で最大の妨害が!!



Ⅰ. ガリラヤの歴史的背景

ヒッポスの遺跡

ガリラヤの歴史

- ヨシュアの時代に嗣業の地に。
- アッシリアの初期の侵攻で征服。
➔ おもな住民はアッシリアに捕囚
- 以降、異邦人に支配され続ける。
➔ 「異邦人のガリラヤ(マタ4:5)」
- ナザレもガリラヤの町
「ナザレから、なんのよいものが出ようか。ヨハネ1:46」



ガリラヤに約束されていた祝福

■ イザヤ書9:1~2

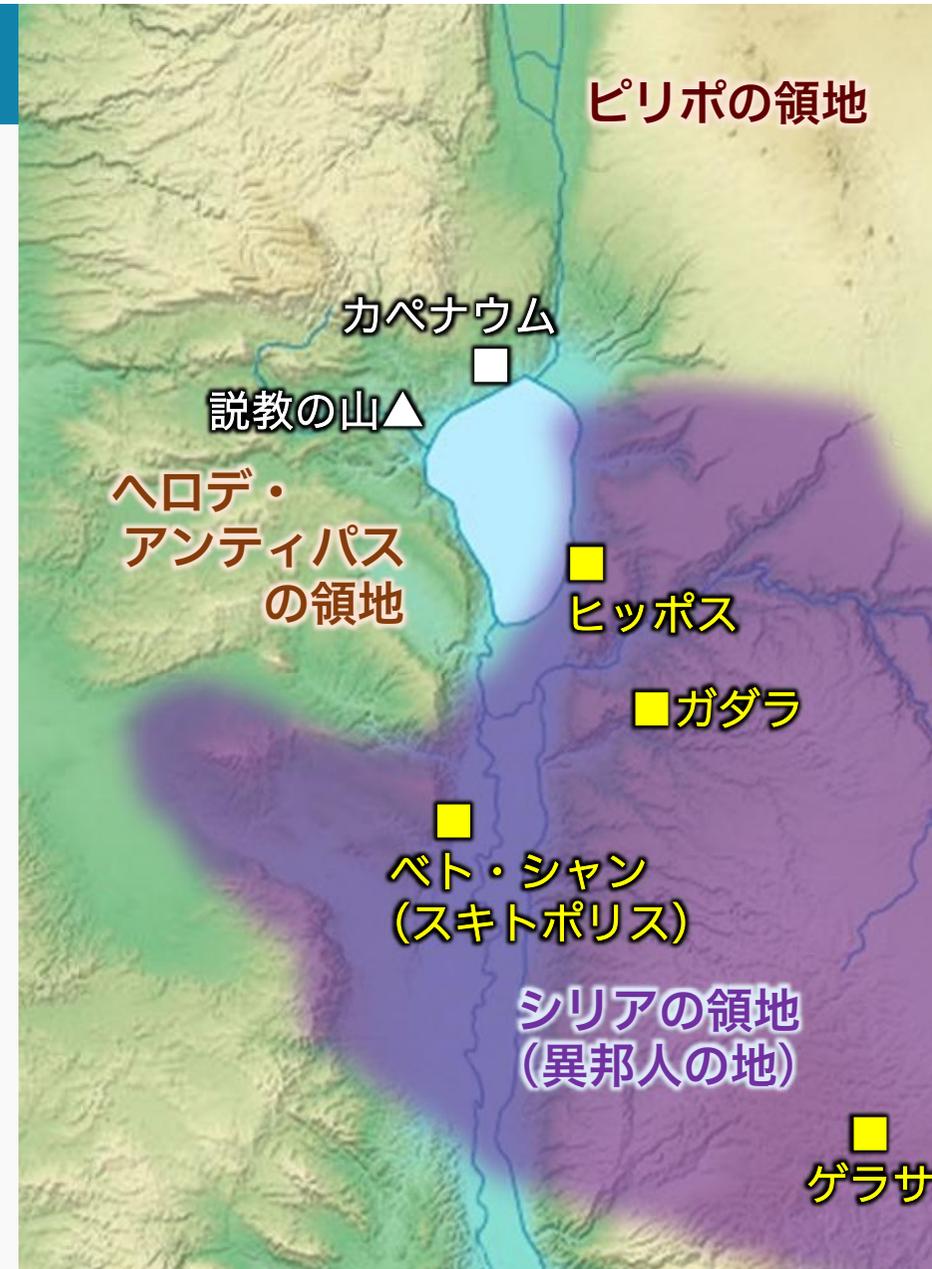
しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、**異邦の民のガリラヤ**は栄誉を受ける。

闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。

「異邦人のガリラヤ」が、メシアの活動のおもな舞台に!!

ガダラとは？

- ヨルダン川東岸に点在していたデカポリス(十の都市)の一つ
- ギリシャ様式の都市として、経済的、軍事的にも繁栄。
- BC63年以降、ローマの支配下に。
- ヘロデ大王の支配下に置かれたが、王の死後は、ローマのシリア州の一部になっていた。
- 東岸(異邦人)と西岸(ユダヤ人)は敵対





II. ガダラ人の癒し

マタイ福音書 8 章28～34節

ガダラの遺跡

本編 悪霊憑き マタイ8:28a

さて、イエスが向こう岸のガダラ人の地*
にお着きになると、悪霊につかれた人が二
人*、墓場*から出て来てイエスを迎えた。

*“ゲラサ人の地(マルコ、ルカ)”

…どちらの呼び方もあったのだろう

*マルコ(ルカ)では一人

→実際は二人。代表的な一人に絞った

*この地特有の岩穴を利用した墓

「服を身に着けず(ルカ8:27)」



本編 狂暴な者たち マタイ8:28b

彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れない*ほどであった。

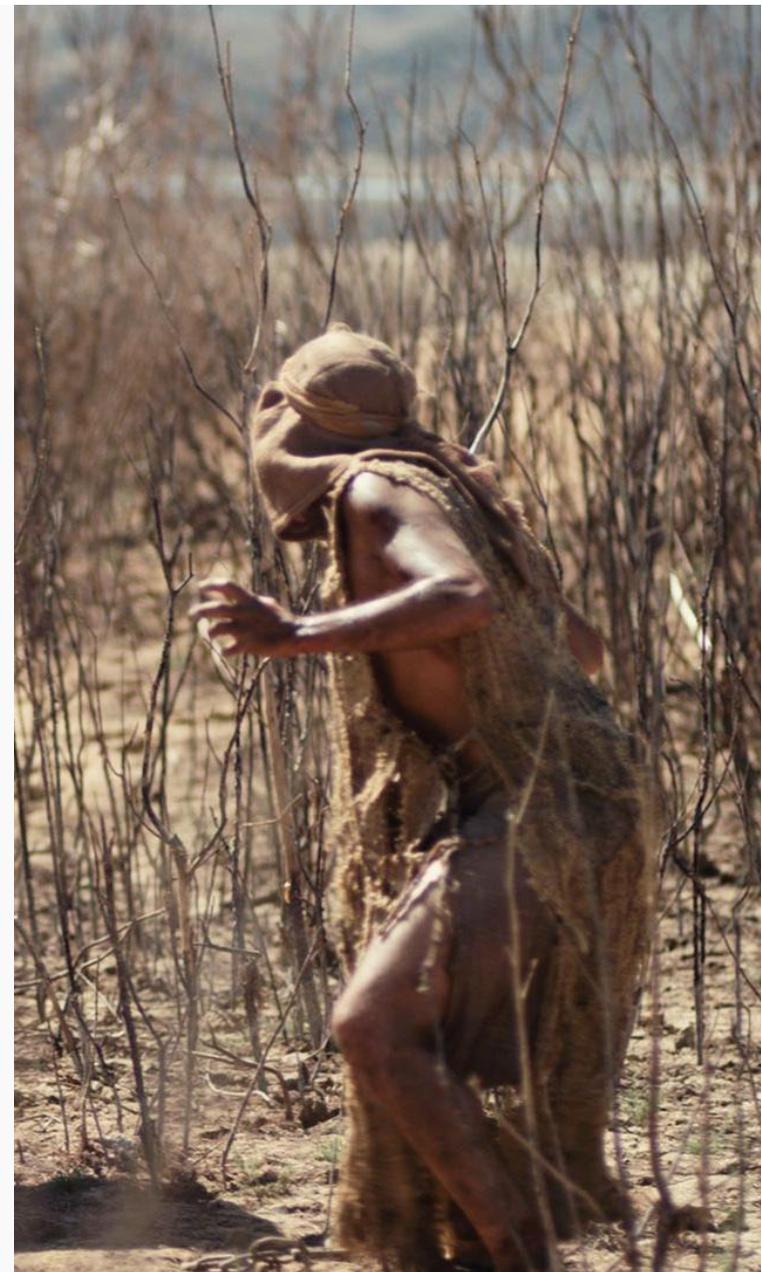
***悪霊によるメシアへの妨害を強調!!**

■マルコ5:4~5

「彼はたびたび足かせと鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまい、だれにも彼を押さえることはできなかった。

それで、夜も昼も墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていた*のである。」

***悪霊による破滅的な力を強調!!**



本編 悪霊の叫び マタイ8:29

すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私
たちと何の関係があるのですか。まだその時
ではないのに*、もう私たちを苦しめに来たの
ですか。」

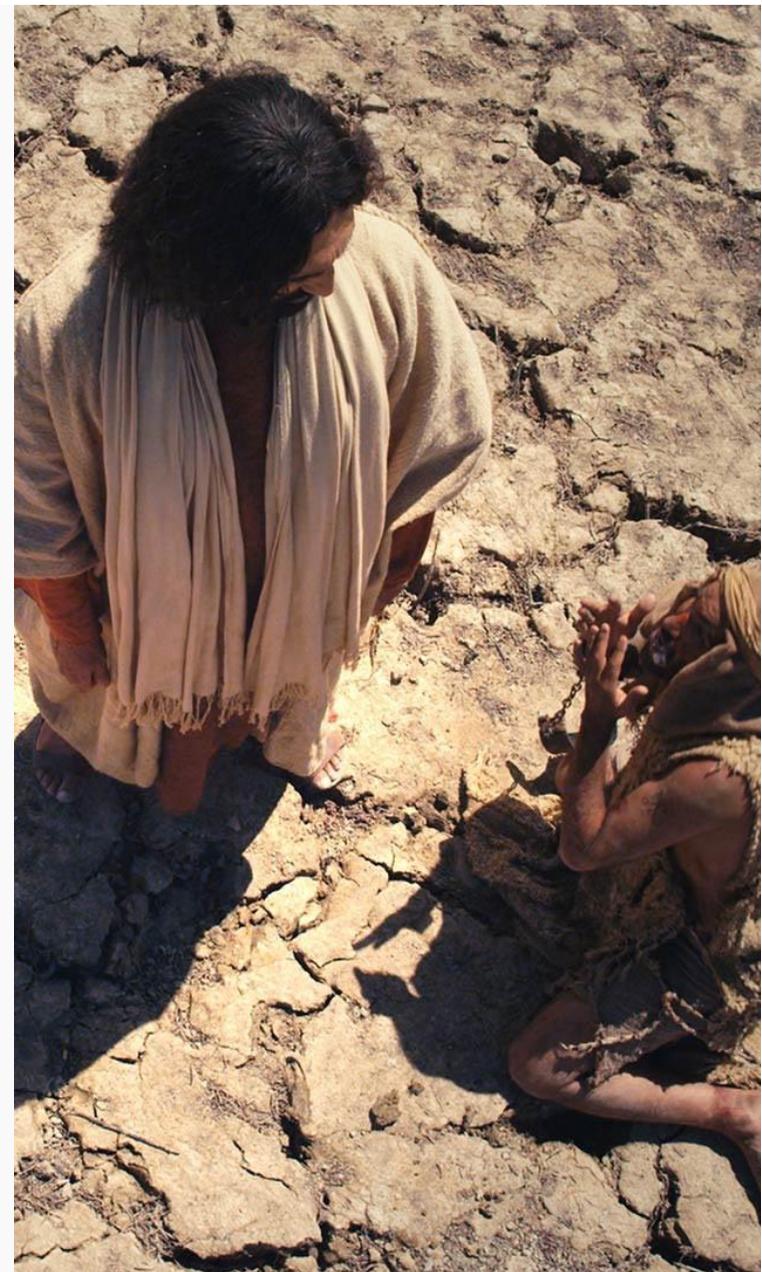
■「イエスが、『汚れた霊よ、この人から出て
行け』と言われたからである。マルコ5:8」

*裁き主としてのメシアの正体を知っていた

➡悪霊たちには、共通の認識が!!

■適わないと見てディール(取引)に!!

➡要注意!! 悪霊も悪魔同様、嘘つき!!



並行記事

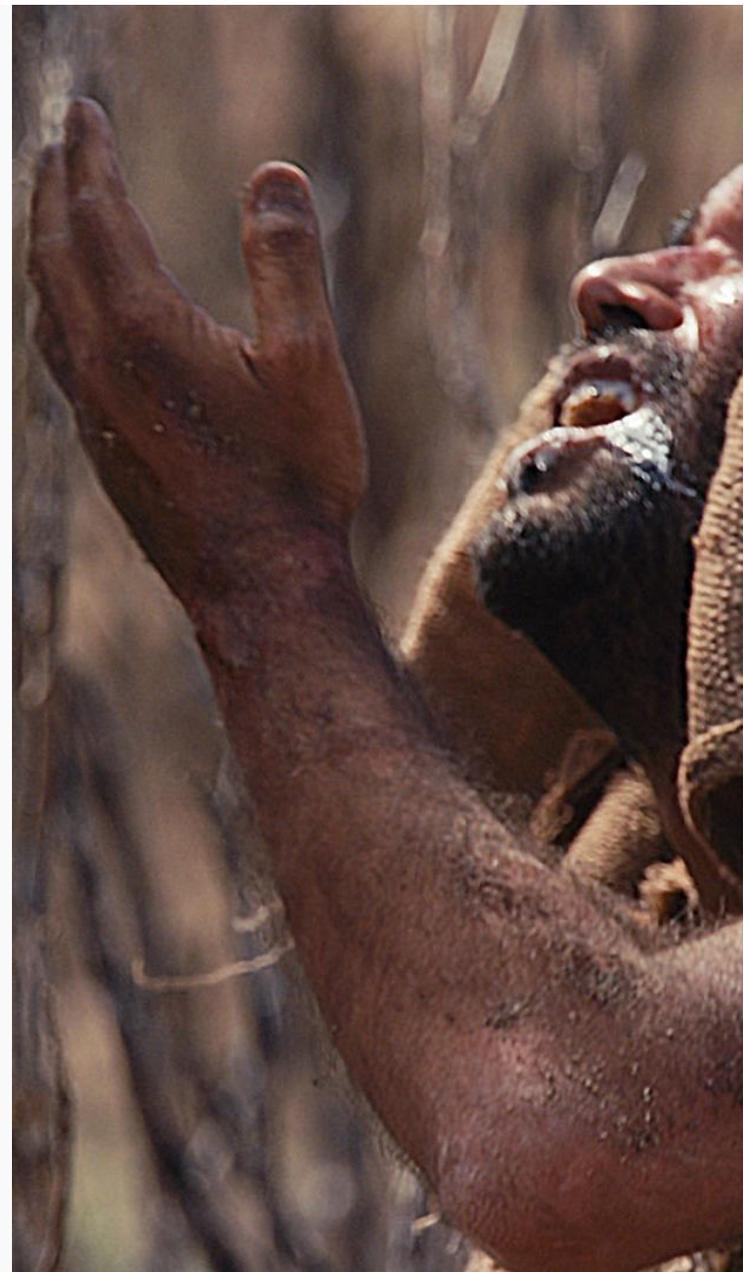
レギオン マルコ5:9

イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「私の名はレギオン*です。私たちは大勢ですから」と言った。

*ローマ軍の大隊(4800名)の呼称と同じ

…百人隊(80名)×60隊

■悪霊の大隊が取り憑いていた



並行記事

底知れぬ所 ルカ8:31

悪霊どもはイエスに、**底知れぬ所***に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。

*アブソス …よみの深いところ

悪霊を閉じ込めておく場所

■ 一方的な悪霊側の主張が書かれているだけ。

➡ メシアは、悪霊の取引に乗ってない



本編 豚の群れ マタイ8:30~31

そこから離れたところに、多くの豚*の群れが飼われていた。

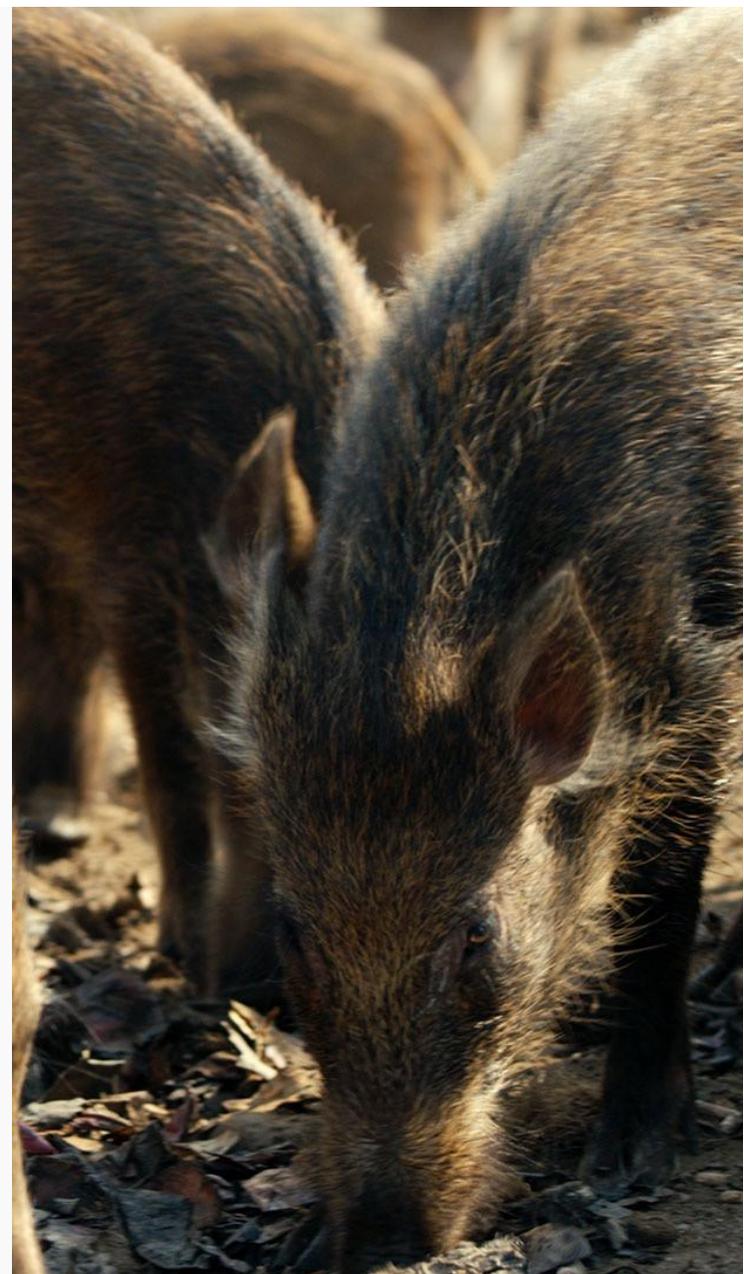
悪霊どもはイエスに懇願して、「私たちを追い出そうとされるのでしたら、豚の群れの中に送ってください*」と言った。

*律法の食物規定で禁じられた、汚れた動物
…異邦人、ギリシャ文化の影響

※豚飼いになった放蕩息子(ルカ15:16)

➡デカポリスを想定

*何か媒体がないと世に存在できない?!



本編 破滅 マタイ8:32

イエスは彼らに「行け*」と言われた。それで、悪霊どもは出て行って豚に入った。すると見よ。その群れ全体*が崖を下って湖になだれ込み、水におぼれて死んだ*。

*裁き主の権威による、悪霊への一方的命令
…許諾ではなく裁き。取引には応じてない!
すでに裁きが確定した存在が、悪霊。

*“二千匹ほどの豚(マルコ5:13)”

■悪霊の破滅的な力に豚は耐えられなかった。
→媒体を失った悪霊は、結局アブソスへ?!

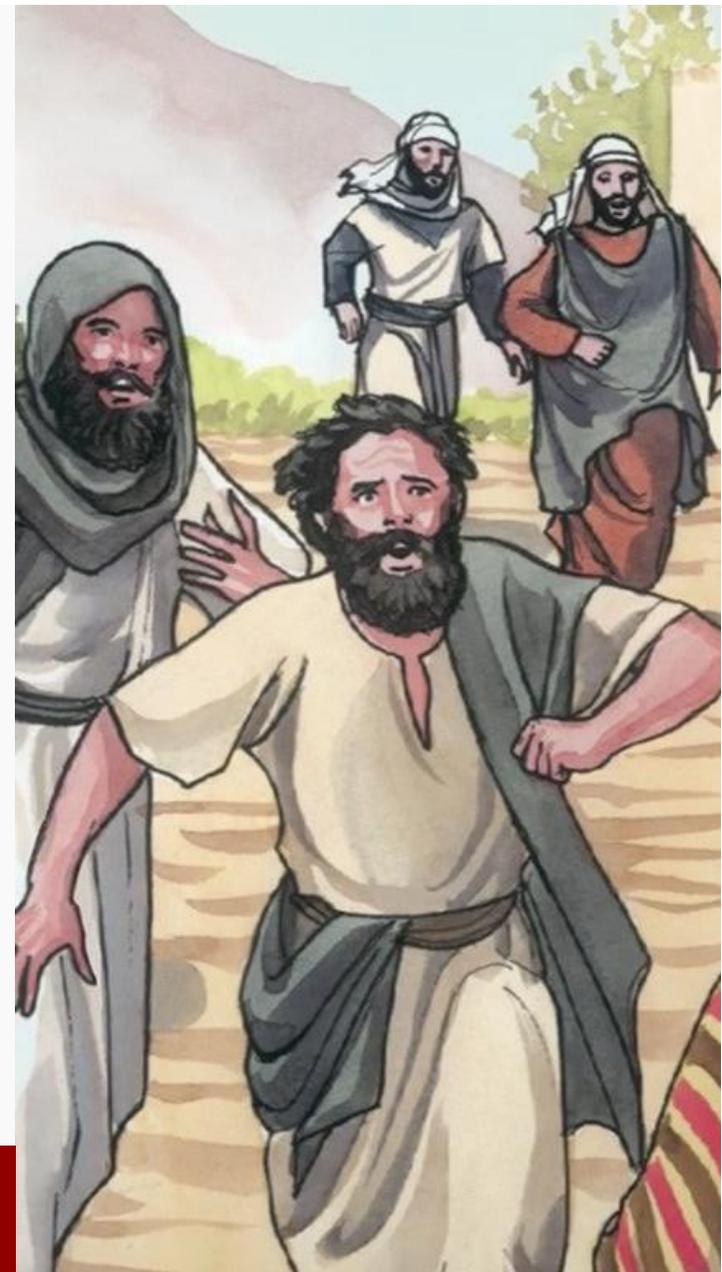


本編 人々の恐れ マタイ8:33

飼っていた人たちは逃げ出して町に行き、悪霊につかかれていた人たちのことなどを残らず知らせた。

■マルコ5:15

「そしてイエスのところに来ると、悪霊につかかれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っているのを見て、恐ろしくなった。」



異邦人が目撃したのは、メシアによる裁き!!

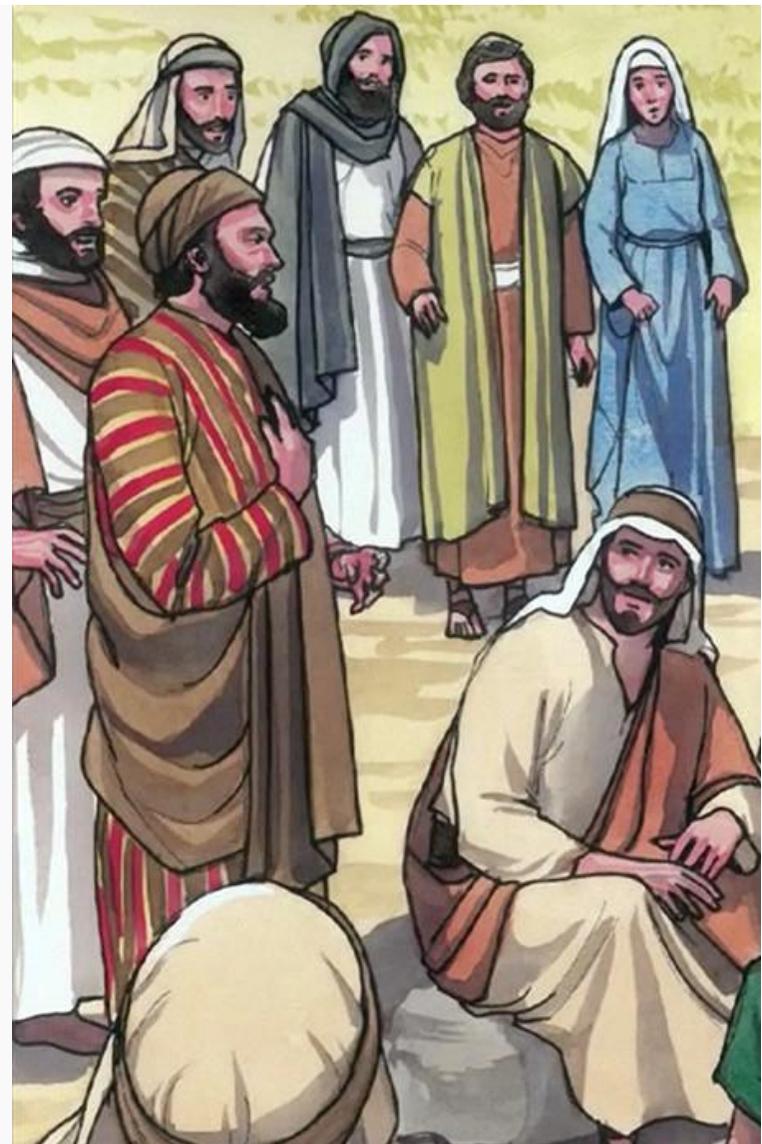
本編 人々の懇願 マタイ8:34

すると見よ、町中の人がイエスに会いに出て来た。そして、イエスを見ると、その地方から立ち去ってほしいと懇願した*。

*レギオンの悪霊と態度が同じ

「非常な恐れに取りつかれていたからであった(ルカ8:37)」

■人々が恐れたのは、ただの出来事ではない。経済的損失などの利得も越えたもの



人々が恐れたのは、悪と罪に対する 神の怒り

並行記事

男の願い マルコ5:18

イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人*がお供させてほしいとイエスに願った*。

*単数形 …癒やされたのは、二人だが、
信じたのは、一人だけ!?

*イエスをメシアと信じ、弟子入りを願った。

■一方的な癒やし(恵み)を体験したこの人は、
イエスをメシアを信じ、弟子となることを
切望した。



並行記事 男の願い マルコ5:19

しかし、イエスはお許しにならず*、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい*。」

*異邦人がメシアの弟子になれる時ではない。

➡この時点ではイスラエルに伝える時

*主の一方的な恵みを証し、人々に告げ知らせる

➡宣教、伝道の原点



並行記事 男の宣教 マルコ5:20

それで彼は立ち去り、イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方*で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

- イスラエルのメシアの奇跡が、異邦人のデカポリス地方*に言い広められた。
- 後の、4千人の異邦人の奇跡(15章)の食卓の布石になっていく。



巨大な妨害も退けられ、メシアのしるしは、異邦人の地でも!!



Ⅲ. まとめと適用

火中の恵みをつかみとろう

ガダラの遺跡

異邦人の地で、メシアが直面した巨大な妨害

- ①内側からの妨害** …「父が死んだら行きます」、神の国の祝福を失いたくない → 露骨な拒絶
- ②前代未聞の大嵐** → 弟子たちも行きたくなかった？
ニネベに行きたくなかったヨナのように？
「死んでしまう」 → 裁きの自覚が？！
- ③大軍の悪霊憑き** …悪霊の大軍による異邦人伝道の妨害。
結局、信じたのは、二人の内の一人居だけ。

平安はどこにある？

- 敵対し、疎んじていた異邦人の地に向かい、足を踏み入れた。弟子たちの心は、動揺しっぱなしだったのではないだろうか。
- 悪と対峙するのは恐ろしい。震えが止まらなくなることもある。心がざわつき、体が震えるただ中へ、主が促される時がある。平安は、私自身ではなく、共におられる主にこそある。
- 主が促された道ならば、権威に満ちた、主の力強い守りがある。安心して行こう。間違いは主が正され、悔い改めれば許される。

平安の主は、約束通り、いつも共にいてくださる!!

異邦人の地に渡ったメシア

- メシアは、巨大な妨害があることを理解されていただろう
- 対岸にいる悪霊の大軍を察知されていても不思議ではない。
- 信じて救われたのは、たった一人だが、その一人の救いのために、主イエスは、弟子たちの動揺を押さえ、大嵐を静められ、悪霊の大軍を追い出し、異邦人から敵意を受けた。

この私が救われたのも、主のあわれみによるものだ!!

ガダラ人に学ぶ、福音宣教の原点

「それで彼は立ち去り、イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方で言い広め始めた。マルコ5:20」

■主がしてくださった、はかりしれない恵みを言い広める。

➔私たちの救いと伝道の原点

“主イエス・キリストは、私の罪のため、十字架で死なれ、
葬られ、しかし、死を打ち破って復活された。”

主がしてくださった恵みの福音を言い広めていこう!!

主が良くしてくださったことを忘れるな

■詩編103篇1～5節 <ダビデによる。>

わがたましいよ【主】をほめたたえよ。

私のうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ。

わがたましいよ【主】をほめたたえよ。

主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

主は あなたのすべての咎を赦し あなたのすべての病を癒やし
あなたのいのちを穴から贖われる。

主は あなたに恵みとあわれみの冠をかぶらせ

あなたの一生を良いもので満ち足らせる。

あなたの若さは 鷺のように新しくなる。

主は あわれみ深く情け深い

■詩編103篇6～10節

【主】は 義とさばきを

すべての虐げられている人々のために行われる。

主は ご自分の道をモーセにそのみわざを

イスラエルの子らに知らされた方。

【主】は あわれみ深く情け深い。怒るのに遅く恵み豊かである。

主はいつまでも争ってはおられない。

とこしえに怒ってはおられない。

私たちの罪にしたがって 私たちを扱うことをせず

私たちの咎にしたがって 私たちに報いをされることもない。

主は ご自分を恐れる者をあわれまれる

■詩編103篇11～14節

天が地上はるかに高いように

御恵みは 主を恐れる者の上に大きい。

東が西から遠く離れているように

主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。

父がその子をあわれむように

【主】は ご自分を恐れる者をあわれまれる。

主は 私たちの成り立ちを知り

私たちが土のちりにすぎないことを 心に留めてくださる。

主の恵みは ところしえに 主を恐れる者の上に

■詩編103篇15～18節

人 その一生は草のよう。人は咲く。野の花のように。

風がそこを過ぎるとそれはもはやない。

その場所さえもそれを知らない。

しかし【主】の恵みは ところしえからところしえまで

主を恐れる者の上にあり 主の義は その子らの子たちに及ぶ。

主の契約を守る者 主の戒めに心を留めて行う者に。

わがたましいよ 主をほめたたえよ

■詩編103篇19～22

【主】は 天にご自分の王座を堅く立て
その王国は すべてを統べ治める。

【主】をほめたたえよ 主の御使いたちよ。

みことばの声に聞き従い みことばを行う力ある勇士たちよ。

【主】をほめたたえよ 主のすべての軍勢よ。

主のみこころを行い 主に仕える者たちよ。

【主】をほめたたえよ すべて造られたものたちよ。

主が治められるすべてのところで。

わがたましいよ 【主】をほめたたえよ。

★ 火中の恵みをつかみとろう ★

■ 主は、巨大な妨害のただ中に飛び込み、一人の人を救われた。
この私の罪のため、十字架で死なれ、葬られ、復活された。

■ このはかりしれない恵みを、言い広めていこう。
妨害は当然ある。共におられると約束された主ご自身が平安だ。

■ 遣わされるただ中で、限りなく味わい知らされていく
主の恵みがある。

主の恵みを言い広め、限りなく味わい知らされて行こう!!

「^{てん}天の^{とう}お父さま。わたしは、あなたに^{そむ}背き、^{つみ}罪を^{かさ}重ねてきました。
^{ひび}日々^{おか}犯してしまう^{つみ}罪をも^{こくはく}告白します。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、

① ^{つみ}わたしの^{あがな}罪を^{じゅうじか}贖うために^し十字架で死なれ、

② ^{はか}墓に^{ほうむ}葬られ、

③ ^{みっかめ}三日目に^{ふっかつ}復活されたことを、^{しん}信じます。

^{しゅ}主イエスは、^{かみ}神の^{いか}怒りのただ^{なか}中で、^{わたし}私の^{つみ}罪を^{あがな}贖ってくださいました。

^{めぐ}はかりしれない^{うち}恵みの内に、^{わたし}私は^{すく}救われ、^{つかわ}遣わされます。

^{しゅ}主が^よ良くしてくださった^{めぐ}恵みを^{ひとびと}人々に^い言い^{ひろ}広めます。

^{ぼうがい}妨害の中で、^{なか}助けてください。^{たす}主の^{しゅ}平安で、^{わたし}私を^{かんぜん}完全に^み満たしてください。

^{しゅ}主イエス・キリストの^なみ名によって^{いの}祈ります。　アーメン」